2022年3月10日

淡路花博20周年記念花みどりフェア（2021年春秋）開催による経済波及効果

兵庫県立大学地域経済指標研究会

　標記の経済波及効果について、関連資料及び想定データをもとに「平成27年兵庫県産業連関表」（兵庫県統計課）及び「平成27年淡路地域産業連関表」（兵庫県立大学地域経済指標研究会）を使用し、産業連関分析により経済波及効果（直接効果及び第1次間接効果、第2次間接効果注１）を試算した。経済波及効果の試算結果は下記のとおりである。

記

**2021年春(R3.3.20～5.30)** 経済波及効果概要

兵庫県内　　　　　　　　　　　　 　淡路地域内

経済波及効果 　経済波及効果

（生産誘発額）　 １４２．８億円　　（生産誘発額）　 １０２．２億円

付加価値誘発額　 　８１．８億円　　付加価値誘発額　 　 ５６．６億円

就業者誘発数　　　１，３９５人　　 就業者誘発数注２　 １，１２９人

**2021年秋(R3.9.18～10.31)**経済波及効果概要

兵庫県内　　　　　　　　　　　　 　淡路地域内

経済波及効果 　経済波及効果

（生産誘発額）　 １０４．２億円　　（生産誘発額）　 　７４．２億円

付加価値誘発額　 　５９．７億円　　付加価値誘発額　 　 ４１．０億円

就業者誘発数　　　１，０１７人　　 就業者誘発数注２　 　８２２人

1. 第１次間接効果：原材料消費による誘発効果、第2次間接効果：民間消費

支出による誘発効果

1. 生産誘発額を就業者数に換算

**表　経済波及効果まとめ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：億円、人）**



※表章単位未満四捨五入のため合計値と内訳数値和が一致しない。

照会先

兵庫県立大学産学連携・研究推進機構特任教授（兵庫県企画県民部統計課 参事）

 (TEL 078-362-4123兵庫県統計課)

**１ 淡路花博20周年記念花みどりフェア(2021年春・秋)の概要**

|  |
| --- |
| 主　催：淡路花博20周年記念事業実行委員会テーマ：みなとつながる「花　緑　食の島」淡路時　期：2021年春　令和3年3月20日～5月30日（72日間）　　　　2021年秋　令和3年9月18日～10月31日(44日間）会　場：淡路夢舞台、淡路島国営明石海峡公園、洲本市中心地市街地エリア、　　　　淡路ファームパークイングランドの丘エリア　　　　その他　淡路島内　サテライト会場(76会場)で開催参加者(春)　メイン会場　53万人、サテライト会場　135万5千人　　　(秋)　メイン会場　37万7千人、サテライト会場　132万人 |

花みどりフェア(2021年春)の参加者数は、実行委員会資料により推計した。2020年同期（3月～5月）は、神戸淡路鳴門自動車道ＩＣ利用台数増減等関連資料により推計した。コロナ禍の影響で中止・延期となったイベントがあったが、2021年春（3-5月）は、前年同期比で188万5千人増加し、関連イベント参加者は66万3千人（WEB参加者7千人を除く）であった。



**1-2 最終需要額（直接効果）の推計**

経済効果推計範囲は、交通費、宿泊費支出、商業・飲食等の関連消費のほか、新たな消費活動による生産活動が含まれる。参加者数は、実人員ベースの日帰り客、宿泊客別の人数を算出し、イベント開催運営費及びイベント参加者及び関係者の消費支出額を推計した。観光客数は、延べ人数(95.2万人)に調整係数を用いて実人数(62.5万人)を推計した。消費単価等は、「兵庫県観光統計研究会調査」(2015)等を参考に推計、参加者数等については実行委員会資料を使用し、消費支出額は、一人当たり消費額（参加者等）に参加者数（実行委員会資料）を乗じて推計した。





この消費支出額にイベント運営費等(4.7億円)を加算した最終需要額は、96.9億円（うち淡路地域73.6億円）となった。



**1-3 淡路花博20周年記念花みどりフェア(2021年春)の経済効果推計結果**

淡路花博20周年記念花みどりフェア(2021年春)開催によってもたらされる経済波及効果は、実行委員会から提供のあった関連資料や各種経済統計データにより、兵庫県及び姫路市を対象に、「平成27年兵庫県産業連関表」（県統計課）及び「平成27年淡路地域産業連関表」（兵庫県立大学地域経済指標研究会）を用い、産業連関分析により経済波及効果（直接効果及び第1次間接効果、第2次間接効果）を推計した。

経済波及効果（生産誘発効果）は、142.8億円となり、これは当初需要(96.9億円)比では1.47倍となった。付加価値誘発効果は81.8億円、雇用創出効果は、就業者誘発数は1,395人となった。淡路地域内の生産誘発額は、102.2億円、付加価値誘発額は56.6億円、就業者誘発数は、1,129人となった。





**２ 淡路花博20周年記念花みどりフェア(2021年秋)の概要**

花みどりフェア(2021年秋)の参加者数は、実行委員会資料により推計した。コロナ禍第5波緊急事態宣言（8月20日～9月30日）もあり、コロナ禍の影響で中止・延期となったイベントがあったが、2021年秋（9～10月）は、参加者は169万7千人、関連イベント参加者は59万5千人であった。



**2-2 最終需要額（直接効果）の推計**

経済効果推計範囲は、交通費、宿泊費支出、商業・飲食等の関連消費のほか、新たな消費活動による生産活動が含まれる。参加者数は、実人員ベースの日帰り客、宿泊客別の人数を算出し、イベント開催運営費及びイベント参加者及び関係者の消費支出額を推計した。観光客数は、延べ人数(70.9万人)に調整係数を用いて実人数(46.6万人)を推計した。消費単価等は、「兵庫県観光統計研究会調査」(2015)等を参考に推計、参加者数等については実行委員会資料を使用し、消費支出額は、一人当たり消費額（参加者等）に参加者数（実行委員会資料）を乗じて推計した。





この消費支出額にイベント運営費等(2.1億円)を加算した最終需要額は、70.7億円（うち淡路地域53.3億円）となった。



**2-3 淡路花博20周年記念花みどりフェア(2021年秋)の経済効果推計結果**

淡路花博20周年記念花みどりフェア(2021年秋)開催によってもたらされる経済波及効果は、実行委員会から提供のあった関連資料や各種経済統計データにより、兵庫県及び姫路市を対象に、「平成27年兵庫県産業連関表」（兵庫県統計課）及び「平成27年淡路地域産業連関表」（兵庫県立大学地域経済指標研究会）を用い、産業連関分析により経済波及効果（直接効果及び第1次間接効果、第2次間接効果）を推計した。

経済波及効果（生産誘発効果）は、104.2億円となり、これは当初需要(70.7億円)比では1.47倍となった。付加価値誘発効果は59.7億円、雇用創出効果は、就業者誘発数は1,017人となった。淡路地域内の生産誘発額は、74.2億円、付加価値誘発額は41.0億円、就業者誘発数は、822人となった。



花みどりフェア2021年春・秋イベント事業を通じて関連地域の地域資源への関心が高まった。地域に点在するさまざまな資源を再認識、再発見し、情報発信を継続していくことで、地域の新たな魅力づくりに寄与した。



